

一般財団法人市川市福祉公社

平成 29 年度第 4 回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成 30 年 3 月 13 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 10 分
2. 場 所：市川市福祉公社 ミーティングルーム
3. 出席者 20 名

〔委 員〕

議長 高久 悟
委員 村尾 薫
四ツ屋 真由美

以上 委員 3 名

〔オブザーバー〕

高齢者サポートセンター市川第一 1 名
高齢者サポートセンター市川第二 1 名
高齢者サポートセンター真間 1 名
高齢者サポートセンター菅野・須和田 1 名
高齢者サポートセンター八幡 1 名
高齢者サポートセンター市川東部 1 名
高齢者サポートセンター国分 1 名
大学准教授 1 名
訪問介護事業所 1 名

以上 オブザーバー 9 名

〔事務局〕

常務理事 林 芳夫
事務局次長 今井 真希
当該事業管理者 館山 史陽
計画作成責任者 澤村 泉
司会 小笠原 麻巳

以上 事務局 5 名

〔公社職員〕

3 名

以上 公社職員 3 名

1. 開 会

(1) 事務局より資料の説明を行う

- ・ 第 4 回 介護・医療連携推進会議資料
- ・ 事例一覧

(2) 市川市福祉公社常務理事より挨拶

今年度最後になります、オブザーバーから忌憚のないご意見を頂きたいと思います。

(3) 委員等紹介

事務局より、委員等紹介を行う

2. 質疑応答

●サービス提供等状況報告について

<高久議長>

- ・利用者数は増えて、介護度が下がっているのは厳しいですね。定期巡回の理解はされているのでしょうか。

<事務局>

- ・着実に相談ケースが増えています。4月からの法改正に向けて事業所が減ってきている中でヘルパーの確保が難しくなっています。1日複数回の訪問希望の方に定期巡回を勧めたり、またエリア外（行徳）の依頼もありました。

<高久議長>

- ・依頼は応えられているのでしょうか、エリア外の依頼を受けるには、何か制約があるのでしょうか、その場合はどのような手順を踏んだのでしょうか。

<事務局>

- ・地域のヘルパーの応援もあり、何とか応えられています。現状は、お受けしている利用者で目一杯となっています。人員増のため募集をかけてもらっている状況です。
- ・エリア外については、サービス圏域が決まっており、事業所が受けられる場合に限り、市に連絡した上でお受けしています。

<四ツ屋委員>

- ・介護度が下がるのは厳しいです。ターミナルが増えるといいのですが、以前もよい事例があって、しっかりとしたケアが出来ていたのもっと、ケアマネージャや病院のソーシャルワーカーにも宣伝して、更に増えるとよいと思います。

●相談受付状況について

<村尾委員>

- ・他社でヘルパーを見つけるのが厳しいです、人材確保が難しいと思いますが、公社は余裕があるのでしょうか？

インシュリン注射が必要なケースがあり、公社でできるケアの範囲はどの程度でしょう。

<事務局>

- ・公社は定期巡回のほかに、夜間対応型と障害の方の定期訪問があります。定期巡回は現在

15名のご利用者がおり、これ以上は受けられない状況であります。
フレックスを使って提供時間に対応できるように、工夫しながら訪問しています。
日中帯はまだ訪問可能な時間もあります。

- ・インスリンのご利用者については、目をご不自由な方で自己注射が懸念されました。1日1回訪問看護での対応希望があり、ご利用には至りませんでした。インスリンの自己注射ができていけば、準備、見守り、確認での訪問も可能だったと思います。

●事例報告について

<村尾委員>

- ・SSが取れなくて定期巡回とは、バタバタだったのでしょうか？娘さんが3人いますが、状態が変わっていく中で、介護参加は得られているのでしょうか？

<事務局>

- ・ケアマネージャは少し前から定期巡回の説明はしていたようです。訪問介護と夜間対応型で訪問していたので状況はしっかり把握出来ていました。
- ・当初からキーパーソンとなる娘様は一生懸命で変わっていません。仕事を持ちながら必要な買い物、SSの準備には訪問されています。

<村尾委員>

- ・訪問介護・夜間から定期巡回になり、サービス量は適正だと思いますか？

<事務局>

- ・就寝介助に訪問できる日とできない日がありますので、毎日就寝介助に訪問ができれば本当はいいと思っています。

<村尾委員>

- ・ほかのケースも、一日3回くらいなののでしょうか？

<事務局>

- ・日に4回～5回のケースもあります。介護度だけでは計れないです。

<四ツ屋委員>

- ・家族は負担軽減になったが、事務所的には報酬面で厳しい状況ですね、以前は関わったケースは定期巡回から訪問介護という逆のパターンが多かったが、今回は珍しい。PRしていいものなのか悩みますね。

<事務局>

- ・退院後に定期巡回を使うケースが多く、身体の回復に伴い訪問介護に移行することは多いです。

<高久議長>

- ・事例であり、積極的に受けられるケースというわけではないですね。慣れたヘルパーが来るというのは安心感があるでしょう。定巡だと夜間のイメージが強いが、朝や日中の利用が増えているようです。十分配慮して利用者を増やしてほしいと思います。

<事務局>

- ・退院後の生活が整うまでという形での依頼が多いです。定期巡回を使っているケアマネージャはリピーターでもあります。退院後の在宅を整えるための使い勝手が理解されて来ています。

<高久議長>

- ・自分の身内もそうだったが、退院後の準備など大変です。医療関係から増えてくることも

考えられますね。

<事務局>

- ・今回は腰椎圧迫骨折の方がおり、治るまでは定期巡回をご利用されることになりそうです。今後もこのような利用も増えていくと思われます。

●オブザーバーの方々からのご意見

<高齢者サポートセンター第一>

- ・実績として訪問回数が増えた。何かトラブルはありましたか？

<事務局>

- ・積雪の日は、人員を増やし、またスタットレスやチェーンを巻いて訪問しました。特にトラブルはなかったです。

<高齢者サポートセンター第一>

- ・人の充実の確保の点、研修をしっかりとやっていると聞きますがどうでしょうか？

<事務局>

- ・ヘルパーに対して月に一度定例会を開催しています。その中で研修会も行っています。

<高齢者サポートセンター第一>

- ・事例のケースはどのくらいの期間での移行でしょうか？

<事務局>

- ・訪問介護と夜間対応型で5~6年利用されていました。

<高齢者サポートセンター第一>

- ・夜間の不安にはどのように対応していたのでしょうか？

<事務局>

- ・ディサービスから帰宅後「誰もいません」ショートステイからの帰宅後「今帰りました」など緊急通報装置で通報して来ています。落ち着かれるまで傾聴しています。

<高齢者サポートセンター第一>

- ・利用者の意向に沿って出来ている点で感心しました。

<高齢者サポートセンター第二>

- ・高サポとしては、定巡からスタートという頭はないです。ターミナルとはどれくらいの時期ですか、タイミングは？ケアマネージャのプランと計画作成責任者の計画とは？どのように違うのでしょうか？

<事務局>

- ・ケアマネージャからのケアプランが主となります。訪問回数もケア内容も状態に合わせて報告・相談しながら、利用者や家族の意向も聞きながら、臨機応変に変更しながら行っています。

<高齢者サポートセンター第二>

- ・高サポからは、こういうサービスがあることしか伝えられないので、ケアマネージャから直接定巡を勧めてほしいと思います。

<事務局>

- ・病院へのPRを検討していきたいと思います。

<高齢者サポートセンター真間>

- ・初めて参加しました。事例を見せてもらいよかったと思います。

<高齢者サポートセンター菅野・須和田>

- ・初めて参加しました。勉強不足のこともあったのでもっと勉強したいと思います。

<高齢者サポートセンター国分>

- ・ケアマネージャが理解していないと思うので、周知して更に利用が増えるといいですね。

<高齢者サポートセンター八幡>

- ・行徳のケースがありましたが、エリアのすみ分けはどうなっているのでしょうか？
他事業所との連携はどうでしょうか？地域資源との連携事例があれば今後知りたいと思います。

<事務局>

- ・本来は行徳のエリアでしたが、担当エリアの事業所が受け入れ困難ということで、市川市の介護福祉課に問い合わせた結果、特に問題がないとの回答でしたのでお受けしました。

<大学准教授>

- ・利用する上でメリット、デメリットの説明がよくされていて良かったです。経営的な問題もありますが、介護度では計れないこともあることが分かりました。人員確保の面で厳しい点がありますね。

<高齢者サポートセンター市川東部>

- ・高サポの関わり、退院支援やケアマネージャとの連携、在宅医療の地域連携と、今日聞いた内容については住民にも落とし込んでいきたいと思います。

<訪問介護事業所>

- ・弊社も定期巡回を始めて1年が経ち利用者様9名でしたが、3月には11名になりました。いろいろと運営上の課題も増えてきています。公社を参考にしていきたいと思います。

<事務局>

- ・今回の介護・医療連携推進会議をもちまして、議長、委員の皆様におかれましては任期満了となります。1年間ご尽力頂き誠にありがとうございました。

<高久議長>

- ・包括参加で活発な意見交換が出来ました。利用者のより良い利益のために、この会議の意見を生かして頂きたいと思います。ご活躍を祈念しております。

3. 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

これをもちまして、第4回介護・医療連携推進会議を終了させていただきます。

なお、次年度の推進会議の日程につきましては、介護保険の改正に伴い、年2回に変更の予定となっております。現在検討中でございます。

また改めてご案内させていただきますのでどうぞよろしく願いいたします。

上記の通り、

委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んで参ります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社
訪問介護課 巡回係 澤村